

千葉県後発医薬品安心使用促進協議会 会議概要

1 日時

令和元年6月4日（火）午後6時～午後7時30分

2 場所

京成ホテルミラマーレ 8階カトレア

3 出席委員（代理出席含む：計13名）

渡邊 三郎委員、飯塚 雄次委員、坪田 淳一委員、佐藤 信範委員、阿部 京子委員、鶴岡 茂樹委員、木川 稔委員、米山 和喜委員、片野 勝広委員、日向 章太郎氏（佐藤 勝巳委員代理）、大塚 真理子氏（渡邊 年子委員代理）、田中 保江氏（船越 徹委員代理）、大谷 俊介氏（岡田 就将委員代理）

4 会長の選出について

会長には佐藤 信範委員が選出された。

5 議事概要

（1）平成30年度の事業結果について

ア 千葉県健康福祉部薬務課

《説明内容》

- ・千葉県の現状
- ・平成30年度の事業結果
- ・診療所へのアンケート結果

イ 海匠健康福祉センター管内後発医薬品安心使用促進地区協議会

《説明内容》

- ・地区協議会報告
- ・銚子、匝瑳市内4病院の後発医薬品使用割合

ウ 夷隅健康福祉センター管内ジェネリック医薬品安心使用促進のための検討会議

《説明内容》

- ・薬剤師部会報告
- ・検討会議報告

《主な発言内容》

【補足】

話題に挙げた抗菌薬は弊社製品で、原薬を理由とした品質上の問題から製造不能状態により供給不能となりまして、成分内のシェアを60%いただいているような製品での事例ということで、これに関しては1メーカーの立場とい

たしましても患者の皆様、医療関係の方々、各団体に色々ご迷惑をおかけしております。

業界としても安定供給をロードマップで謳っている中で、良質の原薬の確保が特に抗菌薬では難しい状況になっている。薬価が経時的に下がっていくなかで、原薬の値上がりによる不採算となる事例もある。メーカーの立場としては、安定供給のために複数の原薬製造所から高品質なものを確保できるよう取組むとともに、今回の抗菌薬の事例についても原因をしっかりと究明したうえでカスタマーにご説明し、一刻も早く回復ということに努めさせていただきたいと考えている。

【意見】

先発医薬品の原薬でも回収事例があるので、後発メーカーが悪いというわけではなくて業界全体の問題として回収があることをアピールする必要があると思う。

【質問】

後発メーカーに原薬に関する情報提供を断られたことがあるが、ジェネリック製薬協会で情報を開示する動きはあるか。

【回答】

原薬の原産国の開示については、当局や団体から色々と要望があり、各社で検討しているようだが、団体としては決定していない。ただ、多く要望がある薬価収載時に一成分で30～40社もあることで、どれを選んでいいかわからないといった問題につきましても、ジェネリック協会としては、いわゆる共同開発されたものをグルーピングすると30社が4～5社に絞ることが出来るため、情報を開示している。ただ、まだ加盟していないメーカーが多々あり、原産国の問題も含めて前向きに検討している。

(2) 各団体の後発医薬品安心使用促進の取組等について
全国健康保険協会千葉県支部

《主な発言内容》

【質問】

軽減額通知が今までの年1回から年2回になり、協会けんぽ単独でやっていたが、他の保険組合も合わせるようになった。他の団体はどのように対応しているのか。

【回答】

千葉県市町村共済組合は後発医薬品に関する通知を年2回、11月と2月に実施している。

後期高齢者医療広域連合は、年3回差額通知を出しており、200円以上の差が出る方には8月に5万通、11月と2月については1万5千通出しており、時期を合わせて出そうというお話は伺っているので、それに合わせてやりたいと考えている。

【意見】

薬局でも後発医薬品の使用促進には力を入れているが、変更不可の処方せんがたまにあるため、できれば一般名で処方していただけると、よりジェネリックの使用促進ができると思う。また、変更不可欄にチェックがついていることがあり、薬局の方で在庫過多になるので、必要なのは仕方ないとして、なるべくチェックは避けて、一般名処方にしていただければと思う。

(3) 今年度の事業計画（案）について

千葉県健康福祉部薬務課

《説明内容》

- ・千葉県後発医薬品安心使用促進協議会
- ・千葉県薬学部連携会議
- ・後発医薬品の工場視察
- ・公立病院等への訪問
- ・保健所単位の地域協議会活動等
- ・県民に対する啓発等